



日中韓地方政府による、未来を見据えた地域づくり ～第24回日中韓3か国地方政府交流会議より～

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課

2023年10月16日から19日にかけて、「第24回日中韓3か国地方政府交流会議」を開催しました。

当会議は、日本、中国、韓国の3か国地方政府間の国際交流・協力を一層促進することを目的として、クレア、中国人民対外友好協会、大韓民国市道知事協議会が1999年より輪番制で毎年開催しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により2020年は開催を中止せざるを得ず、その後は2回、さまざまな工夫の下でオンラインにより開催されましたが、今回、4年ぶりに対面式にて山梨県で開催しました。

山梨県主催歓迎レセプション

山梨県は2023年11月に「第7回日韓知事会議」や「オーストリアとの国際シンポジウム」の開催県となるなど積極的に国際会議などの誘致に取り組んでおり、山梨県の長崎知事から「会議を通じて、皆様の叡智が結集され、地域間交流が一層深まるとともに、友好関係が次世代へと引き継がれていくことを期待しています」との挨拶がありました。

レセプションでは、甲府囃子保存会によるお囃子と太鼓衆・阿羅漢による和太鼓の披露や、別会場ではワインソムリエの田崎真也氏（ワイン県副知事）によるワインセミナーが実施されるなど、日本ワイン発祥の地であり



開催地代表挨拶 長崎幸太郎山梨県知事

日本一の生産量を誇る「ワイン県」山梨の多彩な魅力で参加者を歓迎しました。

会議概要

今回の会議は、日本から52団体・204人、中国から67団体・167人、韓国から11団体・55人が参加し、各テーマについて活発な議論が展開されました。

本会議のプログラム [2023年10月17日]

基調講演 文化交流の再定義

(株)ホリプロデジタルエンターテインメント
代表取締役社長 鈴木 秀

主旨講演

日中韓地方政府による、未来を見据えた地域づくり

【日本】山梨県 副知事 長田 公
【韓国】光州広域市 国際関係大使 朴 先哲
【中国】雲南省外事弁公室 主任
省対外友好協会 会長 楊 沐

パネルディスカッション1

グリーントランスフォーメーションの取組

【韓国】忠清北道會坪郡 郡守 李 在榮
【中国】山西省人民対外友好協会 専職副会長 李 彦
【日本】新潟県 副知事 橋本 憲次郎

パネルディスカッション2

次世代を見据えた日中韓の青少年交流

【日本】旭川市 副市長 中村 寧
【韓国】ソウル特別市 道峰区 区庁長 吳 彦錫
【中国】山東省外事弁公室 副主任 林 海濱
【中国】河南省外事弁公室 副主任
省対外友好協会 副会長 史 永慶

パネルディスカッション3

多様な主体が連携した地域経済活動

【中国】北京市昌平区 副区長 郭 清堯
【韓国】忠清北道永同郡 郡守 鄭 永喆
【日本】延岡市 市長 読谷山 洋司



基調講演

山梨県顧問でもある(株)ホリプロデジタルエンターテインメントの鈴木代表取締役社長から、ご自身の中国・韓国でのビジネス体験を基に、国を超えた相互理解の重要性についてご講演いただきました。

主旨講演

山梨県の長田副知事から、本会議のメインテーマである、「未来を見据えた地域づくり」に関連し、CO₂フリーのグリーン水素を製造するシステム「やまなしモデルP2G(パワー・ツー・ガス)システム」などの先進的な取り組みについて発表いただきました。

次に、光州広域市の朴国際関係大使から、光州広域市にて実施している、乳幼児から高齢者などケアを必要とする全ての市民を対象とした包括的なケアサービス網の構築の取り組みについて発表いただきました。

最後に、雲南省外事弁公室の楊主任(省対外友好協会会長)から、変化する世界情勢の中でも日中韓で協力を深め、交流を拡大し続けることで新時代を迎えることができる国際交流の重要性について発表いただきました。

パネルディスカッション

パネルディスカッション1

【グリーントランスフォーメーションの取組】

忠清北道曾坪郡の李郡守から、気候変動対応に向けた脱炭素グリーン行政の推進のための住民参加型エコ運動の取り組みなどについて発表いただきました。

次に、山西省人民対外友好協会の李専職副会長から、山西省が総合的に推進するエネルギー消費、供給、技術体制の変革と国際協力について発表いただきました。

次に、新潟県の橋本副知事から、脱炭素社会の実現に向け、国・県・市町村・事業者・県民などのあらゆる主体が連携した、再エネ・脱炭素燃料などの取り組みを発表いただきました。

最後に、ファシリテーターである山梨県立大学の吉田教授(吉田教授)から、「外交上(3か国)は、理念や概念でつまずくことが多いが、グリーントランスフォーメーションの理念に集中していけば国や文化の違いを超えて一緒にやっていけるのではないかとコメントがあ

りました。

パネルディスカッション2

【次世代を見据えた日中韓の青少年交流】

旭川市の中村副市長から、オンラインなどの交流も併用しつつダイレクトに異なる文化を体験できる相互訪問を基本とする青少年交流について発表いただきました。

次に、ソウル特別市道峰区の吳区庁長から、グローバルリーダーとしての力量の強化と世界市民意識の育成強化を目指し、日中韓の主要都市を対象とした青少年交流の取り組みについて発表いただきました。

さらに、山東省外事弁公室の林副主任から、国際青年交流の傾向・特徴に合わせて山東省に構築された各種の交流・協力プラットフォームの取り組みを発表いただきました。

次に、河南省外事弁公室の史副主任(省対外友好協会副会長)から、河南省において、友好都市を中心として展開してきた近年の対日韓の青少年交流活動について発表していただきました。

最後に、吉田教授から、「今更か、と言われがちな(3か国の)青少年交流だが、行政が率先して取り組むことで未来に向けて地域住民の偏見を打ち砕いていくことができる」とコメントがありました。

パネルディスカッション3

【多様な主体が連携した地域経済活動】

北京市昌平区の郭副区長から、多様な主体の融合と協働による発展を促進するため、産業発展、学園と都市の融合などの政策を発表いただきました。

次に、忠清北道永同郡の鄭郡守から、永同郡ワイン産業の世界化のための高付加価値化を目指す広告マーケティングの取り組みなどについて発表いただきました。

次に、延岡市の読谷山市長から、デジタル化に注力した多分野にわたるスマートシティ政策について発表いただきました。

最後に吉田教授から、今回の3つのパネルディスカッションの統括として「①リアルなプロジェクトを、失敗を恐れずにやり、その情報を共有すること」「②若い人材を信用すること」「③交流を友好都市に留めず、地方政府が1つのコアになり地域の企業や学校、研究所などをつなげていくこと」が大切であるとのまとめがありました。



パネルディスカッション
延岡市 読谷山洋司市長

交流広場

交流広場とは、各国の自治体同士が交流できる広場のことで、今後の交流内容などについて協議することができます。この場では事前に申し込んでいただいた日中韓3か国の20自治体が参加しました。

交流時間の延長希望や写真撮影などもあり、大変和やかな雰囲気の中、活発な交流がなされていました。

エクスカージョン

本会議終了後は、参加希望者を募り山梨県内の視察ツアーを実施しました。グリーン水素製造の実証研究など

を行う米倉山電力貯蔵技術研究サイト（日韓参加者のみ）や、富士山を望める大石公園ハナテラス、山梨県産ワイン工場などを視察しました。

参加者からは「日本の象徴である富士山やワインを観光資源とし地域づくりを行う山梨の魅力を存分に堪能できた」との感想を得ることができました。

会議を終えて

新型コロナウイルス感染症の影響により4年ぶりに対面式の開催となった今回は「未来を見据えた地域づくり」をメインテーマに、グリーントランスフォーメーション・青少年交流・地域経済活動の3つの異なる分野をサブテーマとし、各国地方政府の先進事例の発表がなされ、未来を見据えた地域づくりの手法を探る良い機会を提供することができました。

日中韓地方政府の国際交流の一翼を担う当会議。この会議が日中韓、ひいては北東アジア地域の発展に寄与することを願います。

次期開催のお知らせ

第25回の当会議は、韓国・光州広域市において開催されます。今後の情報は、随時当協会のホームページなどを通してご案内いたします。日中韓3か国の地域間交流と協力を深める絶好の機会です。ぜひご参加ください。



交流広場の様子